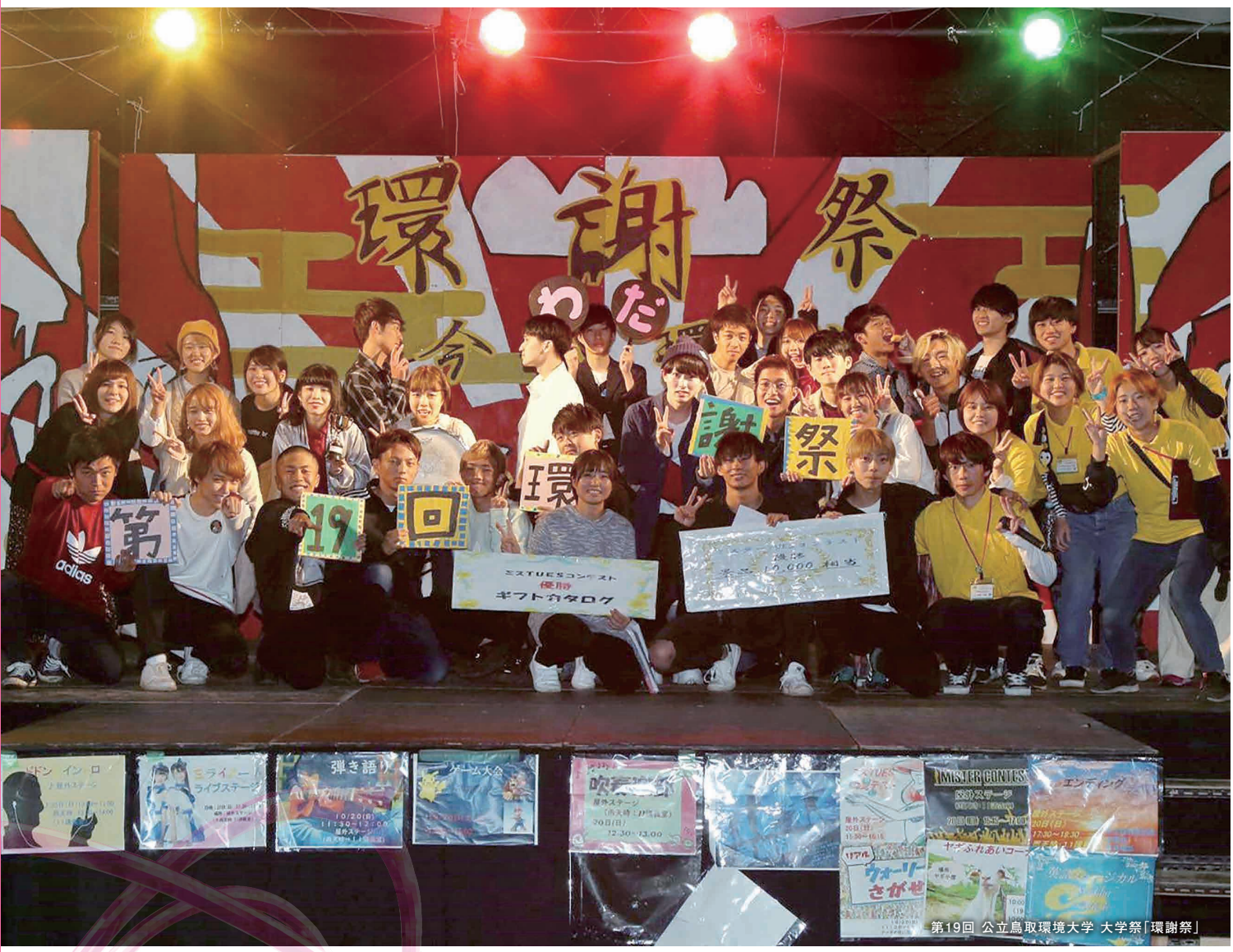
公立鳥取環境大学報 Tottori University of Environmental Studies Public Relations Magazine

環境大レポート

第34号
Mar. 2020
KANKYODAI REPORT



第19回 公立鳥取環境大学 大学祭「環謝祭」

特集 2 3
学生が案内するおすすめスポット
TUES AREA GUIDE

ESSAY 4
「筋肉マダイ」から知る時代の大変革　環境学部 環境学科　吉永 郁生 教授

受賞関係
環大コンペ結果

研究紹介 5
20年後, 30年後の農山村はどうあるべきか　環境学部　山口 創 講師
地域の維持存続の基盤となる第一次産業を研究
様々な切り口から現場を調査してください
経営学部　山口 和宏 講師

キャンパストピックス 6 7
カッセル大学短期留学報告会
佐藤伸准教授がマリンテックグランプリ「三井化学賞」受賞

国際交流 8
国際交流プログラム

クラブ&サークル活動・学友会活動報告 9
硬式テニス部・アカペラ部／
第55回鳥取しゃんしゃん祭りに参加して・環謝祭レポート

プロジェクト研究 10
ふるさとや今住んでいる地域ならではの決まりごとや習慣を探る

キャンパスニュース 11
2019年9月～12月

決算報告 12
2018年度 公立大学法人 公立鳥取環境大学 決算概要

お知らせ
高等教育の修学支援新制度について／2019年度学部・大学院学位授与式

特集 ＼学生が案内するおすすめスポット／

TUES AREA GUIDE

環境大生が暮らしている大学周辺と鳥取駅周辺のイラストマップを作成しました。
学生オススメのお店も載せているので、ぜひ行ってみてください。

写真提供：鳥取県

AREA GUIDE 1 南海飯店

大学近くの中華料理屋さん。とり天という名のから揚げがおいしい。安くてボリュームのあるランチが食べられるので学生に人気。お昼どきはお客さんでかなり賑わっている。

〈住　　所〉鳥取市桜谷247
〈連 絡 先〉0857-23-4953
〈営業時間〉平日 11:00~15:00・17:00~22:00／土・日・祝 11:00~22:00
〈定 休 日〉年末年始

AREA GUIDE 2 鳥人

鳥取で有名なラーメン屋さん。津ノ井周辺に住んでいる学生がよく行く。あご（飛魚）出汁を使った鳥取ならではのラーメンを食べることができる。こぼれんばかりのスープと刻んだタマネギが特徴、味もボリュームも大満足！

〈住　　所〉鳥取市生山125-1
〈連 絡 先〉0857-53-7585
〈営業時間〉11:00～14:30　17:30～21:00
〈定 休 日〉日曜日・月曜日

AREA GUIDE 3 スターバックスコーヒー シャミネ鳥取店

全国で唯一店舗がなかった鳥取県にオープンした待望のスターバックスコーヒー1店舗目。開店前には約1,000人の行列ができ、記念すべき1人目の来店者が環境大の学生だった。学生だけでなく、鳥取市民もよく行くお店。

〈 住所 〉鳥取市東品治町112-13〈 連絡先 〉0857-20-6001〈 営業時間 〉7:00〜23:00〈 定休日 〉不定休

AREA GUIDE 4 すなば珈琲 鳥取駅前店

鳥取といえばすなば珈琲。鳥取県知事の「スタバはないけど日本一のスナバはある」発言がきっかけでできたお店。実は環境大の学食もすなば珈琲。コーヒー以外のメニューも豊富で、もさ海老ホットサンド、県産食材を使用したランチセットなどがオススメ。

〈 住所 〉鳥取市栄町706〈 連絡先 〉0857-27-4649〈 営業時間 〉8:00〜20:00／火・木8:00〜17:00〈 定休日 〉第2・4水曜日

AREA GUIDE 5 MIRAI restaurant&café

レトロな雰囲気のおしゃれカフェ。
女子に人気。大人のためのお子様ランチがとてもかわいい&おいしい。デザートも充実しているのでティータイムのご利用にもオススメ。

〈 住所 〉鳥取市末広温泉町163MKビル2F・3F〈 連絡先 〉0857-68-1013〈 営業時間 〉11:30〜23:00〈 定休日 〉水曜日

AREA GUIDE 6 cafe SOURCE

鳥取駅近くにあるおしゃれな落ち着いた雰囲気のカフェ。フードメニューもスイーツメニューも充実している。日曜日限定でケーキバイキングもしているのでぜひ行ってみては？

〈 住所 〉鳥取市弥生町227グレースビル2F〈 連絡先 〉0857-21-3457〈 営業時間 〉12:00〜24:00〈 定休日 〉年中無休

AREA GUIDE 7 手打ちうどん ちよ志 南吉方店

リーズナブルなうどん屋さん。小、中、大、特大の4サイズがあり、大と特大が同じ値段なので学生の味方！好きなトッピングを乗せて、お会計へ。最後はセルフでだしをかけて出来上がり。

〈 住所 〉鳥取市南吉方1丁目25〈 連絡先 〉0857-30-1232〈 営業時間 〉10:30〜21:00〈 定休日 〉年中無休

AREA GUIDE 8 スペイン石窯 パンの家ボノス

おしゃれなパン屋さん。パンの種類が豊富で、
どれを買おうか迷う。石窯で焼いたパンのいい香りが店内に広がっている。テラス席があるので、モーニングにもオススメ。

〈 住所 〉鳥取市立川町5-233-1〈 連絡先 〉0857-30-5410〈 営業時間 〉7:00〜19:00〈 定休日 〉年中無休

ESSAY　受賞関係

「筋肉マダイ」から知る時代の大変革

環境学部 環境学科
吉永 郁生 教授

皆さん、「筋肉マダイ」は御存じでしょうか。このマダイは通常のマダイと比較して骨格筋（いわゆる可食部）が多い、筋肉太りしたマダイです。つまり、このマダイを養殖すると、結果的により多くの魚肉が得られることになります。

このマダイは「ゲノム編集」という技術によって、骨格筋の増加と成長を抑制する「ミオスタチン」というたんぱく質遺伝子を破壊して、人工的に作出されました。このような品種作出は、従来から化学薬品処理や遺伝子組み換え等によっても行われてきましたが、ゲノム編集によって作出された品種はこれらとは大きな違いがあります。化学薬品による品種作出は食品の安全性に、遺伝子組み換えによる品種作出は、どうしても品種のゲノムにベクター遺伝子が残ってしまうことによる生態学的な安全性を払拭できず、結果的に消費者が受け入れにくく商品価値が下がってしまいました。しかしゲノム編集は、これまで栽培作物（イネや野菜など）や家畜（牛、豚、鶏など）で行われてきた交配育種による品種作出と根本的に違いがなく、単に長時間の手間と偶然の産物である交配に代わって人為的に価値の高い遺伝子変異を促進する分子育種技術だからです。

従来魚類は、育種技術の柱である交配管理が困難なため、新たな品種の作出はほとんど行われてきませんでしたが、これからは分子育種によって生み出された新品種の養殖が盛んになるかもしれません。実際、骨格筋の肥大化はフグやブリなどで行われていますし、クロマグロでは養殖上の問題である衝突死を軽減するために、ゲノム編集で運動性を低下させ多品種の作出が試みられています。

人間との共存以来、栽培植物や家畜が野生種から変化してきた過程は、今やすべての生物で、短期間で人間の思ったように変化させることが可能になってしまいました。

有史以来のこの大きな技術開発が、我々人間と自然環境との関係にもたらす影響は極めて大きいと思われます。このような大変革の時代の中で、環境学は人間の暮らし方や価値観を総括的に考える学問として、ますます重要になると思っています。

第16回 環大コンペの結果について

環大コンペとは「公立鳥取環境大学を支援する会」主催のイベントで、大学生活の向上と地域社会に貢献する企画を学内から募集し、優秀企画（団体）を表彰し副賞を授与するものです。第16回環大コンペのテーマは「地域貢献と学生自身の成長」でした。

今年度は6団体6企画の応募があり、書類審査、プレゼンテーション審査を経て、右記のとおり入賞企画が決定しました。2019年12月24日の授賞式では、同会の英（はなふさ）会長より、「今回応募された企画は工夫が見られました。大学の中では学べないイベントを通して、大きな体験や経験から新しい発想や発信を行い、勉強と地域活動を精一杯頑張って欲しいです。」と激励の言葉をいただきました。

また、1位に輝いた「Action to Forest」が参加者を代表して「今までの活動が認められてとてもうれしく、今後の励みになります。これからも地域を盛り上げていけるよう頑張っていきます。本当にありがとうございました。」とお礼の言葉を述べ、企画のプレゼンを披露しました。

【第1位】
みんなの森フェス！2019 団体名：Action to Forest

【入賞】
鳥取県東部の地域ファウナ解明と得られたデータの活用
団体名：大生 唯統

【奨励賞】
ワカメフェス 団体名：生物部

生物採集活動による自然保全に対する意識を向上させる環境教育プログラム 団体名：環境大生生物調査部

ヤギのふれあいイベント
団体名：ヤギ部

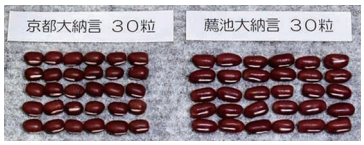
File1 20年後，30年後の農山村はどうあるべきか

農山村が抱える課題

皆さんは農山村に対してどのようなイメージをもっているでしょうか？農業や農村をテーマとしたテレビ番組の影響で，明るく豊かなイメージをもつ人も多いのではないでしょうか。確かに，こうしたイメージも農山村の一側面ではあるのですが，一方で農林業の衰退，過疎化・高齢化の進行，公共交通の衰退など様々な課題に直面している現実もあります。私の研究室ではこのような農山村が抱える課題解決の方策や20年後，30年後の農山村のあるべき姿を示すことを目標に，社会科学的な視点から研究しています。

今ある資源を活用した農山村の発展方策を考える

農山村には様々な課題があり，課題や地域特性に応じた適切な解決策や発展の方策を考えなければなりませんが，例えば，私の研究室では，地域に眠る在来品種に着目し，特産農作物やコミュニティビジネスに活用できないか研究を進めています。在来品種とは，地域で種子更新を繰り返すうちに特有の形質を有するようになった作物のことです。私が調査した事例では，強烈な匂いのニンニク，粒大がとても大きいアズキなどがあり，個性豊かなものが多いです。在来品種は，かつては全国的に存在していましたが，代替え品種が開発されると次第に栽培されなくなり，各地で喪失の危機にあります。このような在来品種に面白さや可能性を感じ，特産農作物に育てるための研究に取り組んでいます。



鷹池大納言は，京都府伊根町の在来品種。この土地でしか栽培されておらず，一般的に流通しているアズキよりも粒が大きい。このような地域の固有の資源を発掘し，特産農作物として活用する手法を構築するための研究をすすめています。

疑問を持つ力，解決のための道筋を立てる力を養ってほしい

ところで，私の研究室では地域課題を扱うという性質上，座学だけでなく実際に地域で何が問題となっているのか，現場に出て学ぶことを重視しています。研究室の学生も座学と現場での学びを往復しながら，卒業研究に取り組んでいます。卒業研究で身に付く力は，社会に対して疑問を持つ力，その疑問を解き明かし，解決のための道筋をつくる力です。これらは研究だけでなく社会で課題解決に取組もうとすれば不可欠となる能力です。こうした能力を身に付け私の研究室や環境学部を卒業した学生が，全国各地で地域づくりに活躍している将来を目指して，学生達と学んでいきたいなと思っています。

環境学部
山口 創 講師
専門 農村計画学、ナレッジマネジメント、農業経営学

File2 地域の維持存続の基盤となる第一次産業を研究 様々な切り口から現場を調査してください

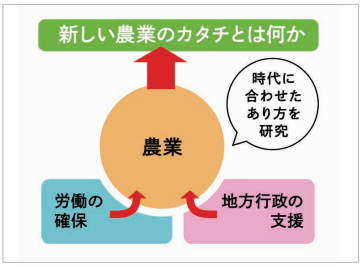
主に農村地域が研究対象 地域衰退の課題とは

私が専門にしているのは、「地域振興論」「農業経済学」等です。具体的には、いわゆる「地方」と呼ばれる地域の主要産業である農業分野における労働力不足に関する問題や、農業者だけではなく農村居住者にとっても重要なライフラインとなっている農協が地域に果たす役割、地域を活性化させるための農業振興のあり方などについて、フィールドワークを中心とした研究を行っています。

現在、関心を持っているのは、近年、「田園回帰」という言葉が注目され、都会から地方へ移住し、新しく農業を始める人も増えつつありますが、このような農業生産の新たな担い手が地域コミュニティや地域振興にどのような役割を果たしているのか、また、彼らが地域の担い手としても活動していくためにはどのようなサポートが求められているのか、という点です。

様々な角度から物事を見つめることが大切

ゼミについてですが、テーマごとに学生にプレゼンテーションを行ってもらっています。『自分の考えを分かりやすく相手に伝えること』、『相手の考えを的確に理解すること』、『相手の報告内容について自分なりの意見を持つこと』を習得する手助けができればと思います。農業を研究といっても、人を見るのか、経営を見るのか、地域を見るのか、産業を見るのかなど切り口は異なります。世間一般の既存の考え方や自分自身の固定観念に囚われず、様々な角度やいろいろなやり方で接近し、自分なりの考えや答えを見つけ出せる力を身につけてもらいたいです。



自分一人だけではなく、違う視点も取り入れる

将来も活躍し続けるため必要なことは『現状に満足しないこと』と『自分一人でできることには限界があることを知ること』だと思います。実際の現場は予想を覆されることも多く、実践的な知識が磨かれます。自分一人が出した仮定には限界があり、いかに調査相手から聞きたいことを聞き出せるかがプラスになります。その経験を積むためにも、学内に留まらず積極的に飛び出し、様々な価値観を持った人たちとコミュニケーションをとってもらいたいと思います 。そのつながりが今後の財産になるはずです。

経営学部
山口 和宏 講師
専門 地域振興論、地域経営論 農業経済

Campus Topics

ドイツ・カッセル大学海外短期研修プログラムの報告会を開催しました

本学とカッセル大学（ドイツ・カッセル市）は、双方の学生の利益を目的とし、共同で語学研修プログラムを計画、促進、実施するため、2019年4月に覚書を締結しました。第1回目の研修プログラムが2019年8月23日から9月17日までの3週間行われ、本学学生10名が、ドイツのツーリズム、産業、再生エネルギーなどの環境と経営に関する専門的な内容について英語で学びました。

その後、本プログラムの研修報告会が2019年10月23日から25日までの3日間おこなわれました。初日には派遣学生の代表として、環境学部3年森美沙さんと経営学部2年文元端葵さんが本研修での体験や研修を通して学んだことについて報告しました。来年度の第2回目の研修プログラムは、8月末から9月半ばに実施する予定で、来夏の研修に参加を希望する学生らが熱心に派遣学生の体験談に耳を傾けていました。

もり　みさ
環境学部3年　**森　美沙**

カッセル大学での授業の魅力は英語を勉強するだけでなく、英語を使って環境と経営について学ぶところです。また、1週目Tourism（観光）、2週目Industry（産業）、3週目renewable energy（再生可能エネルギー）というように、1週間ごとにテーマを決めて授業を進めていくところも魅力のひとつです。研修中はずっと英語を使うので、英語力はもちろん、スピーキング力が上がりました。

研修のはじめは教育間でのカルチャーショックを受けました。日本にいるときのように恥ずかしがって発表しないでいると、英語のクラスのレベルを下げられてしまうということがありました。ドイツでは、発表しないと理解できていないと思われてしまうのです。そういったこともあり、勇気を出して発表をするようになりました。一度手を挙げて発表してしまえば、吹っ切れて、もっと授業に参加しようと思えるようになりました。今後留学に行こうと思っている人も恥ずかしがらずに何事にも一歩踏み出してチャレンジしてほしいと思います。

研修で得た経験は、研修が終わって日本に帰ってからもいろいろなことに活かされています。研修に行ったからこそこうして報告会を開くことができ、英語のコンテストへの参加の話もいただけました。また、授業に対する姿勢も変わりました。以前は発表することは恥ずかしく、苦手だと思っていたのですが、今はドイツに1ヶ月間留学に行けたのだから怖いものはないと思えています。英語の勉強もドイツに行く前より熱心に取り組むようになりました。お世話になったホストファミリーに、今度は自分ひとりで会いに行けるように英語の勉強をがんばっています。

英語の得意不得意はあるかもしれませんが、とにかく留学に行きたいという気持ちが大事だと思います。絶対に良い経験になるので、0.1%でも行きたい気持ちがあれば、行ってみてください。壁にぶつかることもありますが、その壁を壊して日本に帰ってきたら、考え方も人生も変わります。

ふみもと　みずき
経営学部2年　文元 瑞葵

研修では、ドイツと日本の学習環境の差を感じ、自分たちで授業を作ることに刺激を受けました。英語のクラスでは、学びたいことを自分たちで提案し、調べ、ディスカッションやプレゼンテーションを行いました。

私たちは授業の中で「トゥルーコスト」という英語の映画を見て、ディスカッションを行うことを提案しました。この映画は安い服が発展途上国で作られる過程でどのような環境汚染があるのかといった内容の映画でした。例えば、革靴を作る過程で、大量の汚水が出てしまいます。日本のような国では法律で規制されているため企業が対策をしますが、発展途上国だとそういった規制がありません。そのため、企業は服を安価で作ることができますが、環境汚染につながってしまっているそうです。その映画を見た後に、服についての考え方を改めなければならないと英語でディスカッションを行いました。非常に有意義な経験となりました。

研修に行く前は、TOEICの点数を上げようと、自分の得意な部分と不得意な部分を分析しました。また、目標点数までに足りない点数分をどの項目で稼ぐか考えました。そうすることで、項目別にどれだけ点数が必要か分かり、あまり負担をかけず、継続的に勉強できました。その結果、点数アップにつながり、目標点数に到達することができました。

留学を考えているみなさんには、ぜひ積極性を出していってほしいと思います。アクティブラーニングが大切です。知識は自分の経験をみんなに広めることから生まれます。積極的に参加して、話して、質問して、役に立ちそうなことはすぐに実践してください。ドイツでは、学校から帰ったら、自分の思ったことを英語に直して、パソコンに保存し、それを次回の授業のときに見ながら発表しました。みなさんも自分の考えをみんなに伝えて、話して、共感しましょう。それが新しいイノベーションにつながり、自分の強みになるかもしれません。ぜひ、実践してほしいと思います。

Campus Topics

佐藤伸准教授が マリンテックグランプリ「三井化学賞」を受賞しました

2019年9月28日に、東京コンファレンスセンター・有明で「第3回マリンテックグランプリ」が、開催されました。232チームの中から書類選考やプレゼンテーション・面談によって選ばれたマリンテックグランプリのファイナリスト12チームが、プレゼンテーションを繰り広げ、本学環境学部佐藤伸准教授の「キノコによる廃ゴム再資源化プロジェクト」が「三井化学賞」を受賞しました。

「マリンテックグランプリ」は、リアルテック領域（海洋開発、水産、マリンバイオ、海洋観測、気象、海底資源、海洋ロボティクス等）の技術シーズと起業家の発掘育成を目的としたビジネスプランコンテストです。

▲ 受賞式の様子

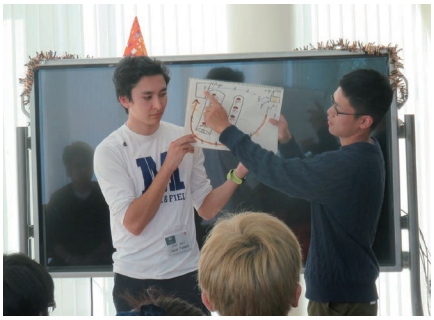
国際交流プログラム

本学では、海外大学との交流協定に基づき、様々な学生交流プログラムを実施しています。海外の学生との交流や歴史・文化体験は、語学力や国際感覚を磨くだけでなく、視野の広がりや自己成長のきっかけとなっています。

ミドルベリー大学との交流事業を行いました

本学では、2013年からミドルベリー大学日本校（本校：米国バーモント州）との交流事業を実施しています。本事業では、ミドルベリー大学日本校の留学生が鳥取県に来訪し、本学の学生とともに智頭町を主なフィールドとして林業が抱える問題点と地域の取り組みについて、体験を通じて学びながら、両校学生および地域の方との交流を深めています。6回目の実施となる今年度は、2019年10月26日～28日の3日間、ミドルベリー大学の訪問団10名と本学学生7名が参加しました。

初日は、智頭町芦津地区の山林で間伐体験を行いました。地元の講師の方々のご協力のもと、グループごとにチェーンソーの操作方法や伐採方法を学んだ後、実際に伐倒、採材、集材、積み下ろしの作業を行いました。汗を流した後は、地域の方を交え、両学の学生が協力して作ったカレーや地元の料理を囲んで親睦を深めました。



2日目は、地元講師の方から林業の現状や課題、地域の取り組みなどについてお話を聞き、前日に行った間伐体験の理解を深めました。その後、間伐材を温水プールの熱源として利用している薪ボイラー施設を訪れ、町内で間伐された木材が町内で経済循環される「地産地消」の仕組みを見学したほか、石谷家住宅や智頭宿の散策を通して地域の歴史を学びました。

最終日は、本学英語村にて智頭町で学んだことについて振り返り、グループごとにまとめを発表したほか、ＳＤＧｓについて英語で議論しました。参加した学生からは、「地方創生と持続可能なまちづくりについて考えるきっかけとなった。」「国際交流と林業体験が同時に体験できる貴重な機会だった。」といった感想が聞かれました。

台湾からの交流団が本学を訪問しました

2019年10月21日、台湾の大学・高校青少年交流団38名が本学を訪れました。これは、鳥取県内で開催されたイベントに参加した仏光大学、南華大学、普門高等学校の交流団が、交流事業の一環として本学を訪問したものです。

交流団一行は、学長を表敬訪問した後、本学学生の案内のもと学内見学を行いました。その後、茶道体験で日本文化に親しんだり、各大学の学生それぞれがプレゼンテーションを行ったりして、お互いの理解を深めました。昼食を共にした後は、本学の学生と一緒にしゃんしゃん踊りを体験し、最後には輪になって踊り、笑顔のあふれるフィナーレとなりました。短い1日ではありましたが、様々な体験を通じて交流を深め、それぞれにとって有意義な時間となりました。

硬式テニス部

私たち硬式テニス部は現在30名の部員で活動しています。部員の中には、中学高校でテニスをしており、大会などで入賞した経験のある人から大学に入学してから初めてラケットを握った人など様々で、どなたでもテニスを楽しむことの出来る環境が整っています。

主な活動は、週4日程度の大学のテニスコートでの練習と、鳥取市テニス協会が主催する大会や中国四国学生テニス連盟が主催する大会に出場しています。今年度も多くの大会に出場しました。大会の中には、入賞した大会や連覇を果たした大会もあります。

休日には、大学のコートで地域の方々と一緒にテニスをしたり、環謝祭に模擬店を出店したりと地域の方々との交流も積極的に行っています。

さらに実力をつけ、より多くの大会で入賞できるように頑張ります。応援よろしくお願いします。

代表：吉田 将輝（経営学部 3年）

アカペラ部

私たちアカペラ部は、現在27名の部員が所属しており、アカペラの楽しさや魅力を伝えることを目的として活動しています。

活動内容は、学園祭や学外のイベントに向けての練習です。今年は、発表会に6回参加させていただきました。活動頻度はバンドごとによって異なりますが、主に昼休みや空きコマを活用して練習を行っています。

ここまで聞いて、「大変そうだな。初心者にはできないよ。」と思われた方がいると思います。しかし安心してください！私も含め、部員のほぼ全員がアカペラ初心者です。未経験ながらも日々努力して頑張っています。

今後は、鳥取大学のアカペラ部と混合バンドを結成し、活動していくことも予定しています。実力はまだまだですが、アカペラを多くの方に知っていただけるよう頑張りますので応援よろしくお願いします！

代表：高橋 龍晟（経営学部 2年）

学友会 活動報告

【第55回鳥取しゃんしゃん祭りに参加して】

2019年8月14日、第55回鳥取しゃんしゃん祭りに公立鳥取環境大学A連・B連として踊り子・委員総勢115名で参加しました。当日は台風10号の影響で雨天中止が心配されていましたが、問題なく最後まで踊りきることができました。

本番に向けての練習ではしゃんしゃん傘踊り習得だけでなく、総代・リーダーがレクリエーションを企画し、学年を超えて交流を深めることにも力を入れました。

第55回鳥取しゃんしゃん祭りに参加するにあたり、様々な面でご協力いただいた皆様へこの場をお借りして心より御礼申し上げます。TUESしゃんしゃん委員会はこれからも精一杯お祭りに参加する学生のサポートをして参りますのでよろしくお願い致します。

TUESしゃんしゃん委員会
代表：萩原 千春（環境学部2年）

【環謝祭レポート】

2019年10月19日、20日、本学で第19回公立鳥取環境大学大学祭「環謝祭」を開催いたしました。

今年度の環謝祭のテーマは『今に環謝～令和を楽しもう～』です。「環謝」は、今を平和に生きていることに感謝することと、環謝祭をかけました。そして今年度から新しい元号「令和」です。新たな時代が始まるということで、学生や地域の方々、企業の皆様と新しい環境への第一歩を踏み出したいという意味を込めて、このテーマにしました。

今年も、鳥取市内の中学校、高等学校に加え、近隣の公民館や多くの企業にもご協力いただき「環謝祭ポスター」を配布し、掲示していただきました。その結果、地域住民の方々にも多数ご来場いただきました。当日は30を超える企画や多種多様なイベントを実施し、盛り上げることができました。1日目はあいにくの天気でしたが、2日間通してたくさんの方にご来場いただきました。特に「TUES SPECIAL LIVE」では講義室を埋め尽くすほどの観客がおり、大盛況でした。昨年にはなかった会場全体を使うイベントもあり、他にも新しいことに挑戦できました。

また、昨年に引き続き鳥取県出身のアイドル「ミライノート」さん、同じく鳥取県出身のアイドル「Re:Jewel」さんにもステージに出演していただきました。昨年を上回る大盛況となりました。「お化け屋敷」も待ちが途切れないほどの大盛況でした。模擬店は42団体が出店し、地域,企業,団体の方々にも模擬店を盛り上げていただきました。そして、例年と同様環境に配慮し、リターナブル食器を使用しました。

第19回環謝祭を開催するにあたり、ご協力いただいたみなさまへ、この場をお借りして委員会を代表し、心より御礼申し上げます。

来年度も多くのお客様のご来場を委員一同、心よりお待ちしております。

公立鳥取環境大学学友会　大学祭実行委員会
委員長：西原 綾菜（環境学部2年）

プロジェクト名

ふるさとや今住んでいる地域ならではの決まりごとや習慣を探る

「ふるさとや今住んでいる地域ならではの決まりごとや習慣を探る」をテーマに展開するのが、わがプロジェクト研究（略称：プロ研）であります。

人が集まり、組織や社会が形作られ、社会を纏め組織を動かしていくために、様々な規則や決まり事が生まれてきました。部活動や町内会、会社経営にクルマの運転と、地域や組織、そして私たちの日常には必ず何らかの仕組みやルールが存在します。それらの中で、このプロ研では、生まれ育った土地や現在住んでいる地域ならではと思われる決まりや習慣、制度に着目し、その誕生の経緯、背景等について探ることにしました。こう書くと、内容が固過ぎると、クレームを頂戴しそうですが、グローバルの視点は先ず足下の理解からを切り口に学習を進めています。

スカイツリーに未だ行ったことのない地元民が多いように、身近な事柄に興味の度合いが薄いのは人の常かもしれません。慣れ親しんだ土地に目を向けて、その決まりや習慣、制度はなぜ生まれたのか、それぞれの歴史を遡れば、未来につながるヒントや発見が必ずある、この想いを旨に、3チームに分かれて、調査・分析を進めています。

例えば、食習慣一つをとっても、地域ごとに根付いた独自の決まり事があります。出汁は昆布が基本、いや鰹だ、お雑煮のお餅は丸だ、四角だ、お酒といえば清酒、当然焼酎でしょう、玉子焼に入れるのは砂糖それとも塩などなど、違いがみられます。日々の営みが習慣となり、やがて地域の文化に発展してきた謎がそれぞれの源を辿ることで明らかになります。自分達が他所も同じだろうと思っていた事が実はその地域独特のものだったというこの発見が他の土地や異なった文化に対する関心を呼び、相互理解への礎になれば万々歳です。また、ご近所との交わりや若い世代の定住問題も自治会、町内会の仕組み、子育て支援事業を調べることで展望が開けるのでは、とメンバー1人1人、熱心に向き合っています。

改めて、グローバルな視野は足下からをキーワードに、成果を積み重ねていくことができれば幸せです。

プロジェクトアドバイザー　経営学部　中山実郎 教授

プロジェクトメンバー　〈 環境学部 〉1年：魚谷侑磨、高安厚志、田中彩菜、濱名由梨香
2年：穴吹鞠奈、石井秀空、大澤明恵、福田早紀
〈 経営学部 〉1年：有田拓未、加藤美佑、武田眞生、田中陽菜
2年：井出康揮、大瀧豊、永松航征、松岡篤生

鳥取市の環境を考える学生ワークショップが開催されました

2019年10月23日、本学で鳥取市の環境を考える学生ワークショップが開催されました。このワークショップは、鳥取市環境基本計画等（2021年度から10年間）の改定に向けて、鳥取市が将来目指すべき「環境都市像」に関する若者の意見を収集・反映するために鳥取市からの要請を受けて開催されたものです。環境と経営の両学部から、環境意識の高い有志の学生18名が参加しました。

4つのグループに分かれた学生たちは意欲的に意見交換をし、「人口が少ないからこそ先進的な取り組みができると思う。使わなくなった施設を活用して、資源循環システムなど特徴的な施設をつくってはどうか」「鳥取には自然などの環境資源が豊富にあるが、それを活用できる人材が少ない。環境教育を一層推進してはどうか」など、限られた時間の中でしたが、様々な提案がなされました。

▲ グループワークでの熱心な議論

▲ 各グループの発表の様子

特別公開講演会「安定的な資産形成のための金融リテラシー」を開催しました

2019年12月11日に、金融庁の遠藤俊英長官を講師としてお招きし、「安定的な

資産形成のための金融リテラシー」を演題とする特別公開講演会を開催しました。この講演会は、学生の教育・研究活動をより一層充実させることはもとより、鳥取県内における経済・金融等の更なる発展に資することを目的として開催しています。2回目となる今回は、約470名（学生270名、一般200名）が聴講し、会場は満席となりました。

遠藤長官から、まず金融行政改革の歴史を簡単に振り返られたのち、「①日本の家計における金融リテラシーの現状」「②つみたてＮＩＳＡを例とした長期投資による資産形成の重要性」「③金融デジタライゼーション戦略の推進に係るサイバーセキュリテイ及び暗号資産対応」「④地域金融機関を主軸とした金融仲介機能の十分な発揮と金融システムの安定性確保について」等、多岐にわたるトピックスを解説していただきました。また、金融当局・金融行政運営の改革で取り組まれている「１ｏｎ１ミーティング」等、組織活性化のための様々な施策をご紹介いただき、盛会のうちに閉会となりました。

金融のスペシャリストである遠藤長官から、直接、かつ非常に分かりやすく講演いただけたことは、本学の学生にとって極めて貴重かつ有益な勉学の機会となっただけではなく、地元企業関係者・地域住民の方々にとっても大変有意義な時間となりました。

▲ 講演の様子（遠藤長官）

▲ 講演の様子（会場）

本学の学生チームが「全国大学生マーケティングコンテスト」で第2位を受賞しました

2019年12月15日に神戸市外国語大学で開催された「全国大学生マーケティングコンテスト」で、本学の環境学部と経営学部の混成チームが第2位を受賞しました。

毎年異なるスポンサーが販売する製品のマーケティングプランを競うこの英語のプレゼンテーションコンテストには3年前から本学の学生が出場しており、今回の受賞は初出場で特別賞を取って以来となります。今年は神戸の老舗文具店のナガサワ文具センターがスポンサーで「神戸インク物語」が対象製品でしたが、デジタル社会においても、「手書き文化」が若い女性に受け継がれていることに着目し、インクのトライアルの場としてカフェを活用するプランを提案しました。バイリンガルの学生が多い私立大学や英語専攻の学生チームに劣らないプレゼン力と、実行可能性の高いプランが評価されました。

▲ 大会当日プレゼンの様子

▲ 学長への受賞報告

経営学部3年の春名このみさんを中心に、環境学部3年杉本糸音さん、森美沙さん、そしてインドネシアからの留学生であるオスティナ・ワイブシさんが出場し、経営学部1年の亀井杏奈さんもプラン作成に協力しました。また、人間形成教育センター中村弘子准教授をはじめ経営学部の教員や英語村のスタッフのサポートもありました。

【中央大学共同フィールド演習】中央大学期末成果報告会に本学の学生が参加しました

本学と中央大学とは、連携協力協定に基づく交流事業として、8月に石川県能登町で両大学の学生が参加するフィールドワークを実施しました。（2019年8月28日から30日まで）

このプログラムに参加した本学の学生5名が、12月14日に中央大学多摩キャンパスで開催された期末成果報告会（中央大学ＦＬＰ環境・社会・ガバナンスプログラム）で発表の機会をいただき、両大学の参加者が学修成果のプレゼンテーションを行いました。

報告にあたっては、プログラムをご担当いただいた中央大学の谷下教授のご指導の下、フィールドワークで活動した3つの班（森、里、川）に分かれて検討を重ね、共同作業の成果として報告資料をまとめあげました。

報告はサマースクールでの活動報告とともに、現地でのエコツアーを提案する形で、各班約7分程度のプレゼンテーションを行いました。各班の発表後は、谷下教授から補足説明も行われ、プログラムに参加しなかった学生もさらに調査地についての理解を深めました。

また、報告会終了後の茶話会では、お互いの大学の情報交換を行い、交流をより深める機会となりました。

参加した学生からは「中央大学の学生の取り組む姿勢が大いに刺激になった」「プログラムに参加しなかった学生とも交流ができてよかった」などの感想があり、有意義な報告会となりました。

▲ 発表の様子

大学の取り組み

高等教育の修学支援新制度について

本学は、2020年4月から開始される国の新しい修学支援制度（給付奨学金および授業料減免制度）の対象校となりました。大学に在学中の方も条件を満たせば支援を受けることができますので詳細の確認をしてみましょう。

修学支援新制度についての詳細はこちらのホームページでご確認ください。
https://www.jasso.go.jp/shogakukin/kyufu/index.html

＝ 新制度のポイント ＝

【1】より多くの学生が支援を受けられるようになります。

住民税非課税世帯でなくても、世帯収入が一定金額以下であれば、給付型奨学金および授業料減免の3分の2または3分の1の額の支援を受けることができます。　※世帯収入の他、資産要件もあります。

【2】給付奨学金の支援額が増えます。

自宅通学 ＝ 29,200円　自宅外通学 ＝ 66,700円　※住民税非課税世帯<第1区分>の場合

【3】授業料のサポートを受けられます。

新しい給付奨学金の対象者は、大学へ申請することにより、授業料の免除・減額を受けることができます。

【4】世帯収入に応じた3段階の基準で支援額が決まります。

支援の区分は世帯構成や年収などで異なります。どのくらいの支援が受けられるか、JASSOのホームページで確認をしてみましょう。
http://shogakukin-simulator.jasso.go.jp

※学業不振者は支援が打ち切られたり奨学金の返還が必要になる場合があります。

決算報告

2018年度の決算の概要は次のとおりです。詳しい情報は大学のホームページでご確認ください。
〈 http://www.kankyo-u.ac.jp/about/announcement/report_since2012/ 〉

損益計算書

収　益

項 目	金 額(円)	割合(%)
運営費交付金収益	882,810,353	50%
入学金収益	81,112,600	4%
授業料収益	602,875,648	34%
検定料収益	28,227,800	2%
受託研究・事業等収益	11,407,361	1%
補助金等収益	40,278,064	2%
寄附金収益	2,985,985	0%
資産見返負債戻入	78,096,945	4%
財務収益	4,529,251	0%
雑益	22,584,647	1%
目的積立金取崩額	29,805,000	2%
合計	1,784,713,654	100%

収　益

大学の収益は主に、設置者（鳥取県及び鳥取市）からの運営費交付金（50%）と学生からの授業料、入学金の納付金（34%）です。

費　用

項 目	金 額(円)	割合(%)
教育経費	301,736,168	17%
研究・教育研究支援経費	211,097,947	12%
受託研究・事業費	10,280,173	1%
人件費	1,029,501,648	57%
一般管理費	127,690,359	7%
財務費用等	50,546	0%
雑損	8,570	0%
当期総利益	104,348,243	6%
合計	1,784,713,654	100%

費　用

大学の費用は主に、教育経費（17%）、研究・教育研究支援経費（12%）、役員・教職員の人件費（57%）、一般管理費（7%）です。

貸借対照表

資　産

項 目	金 額(円)	割合(%)
土地	3,514,650,000	34%
建物、構築物、工具器具備品他	5,417,849,404	52%
図書	361,472,121	3%
有価証券等	200,278,626	2%
現預金	882,317,676	9%
未収入金等	12,303,894	0%
合計	10,388,871,721	100%

資　産

大学の保有する資産はその大部分が土地・建物等（86%）です。また有価証券・現預金等が11%を占め、図書は全体の3%です。

負債・純資産

項 目	金 額(円)	割合(%)
固定負債	752,719,721	7%
流動負債	147,197,377	2%
資本金・資本余剰金	8,653,688,701	83%
利益剰余金	835,265,922	8%
合計	10,388,871,721	100%

負債・純資産

資本金は設置者から出資を受けたものです（鳥取県50%、鳥取市50%）。また、固定負債の80%が資産見返負債で残りが寄付金債務です。

※ 寄附金債務：次年度以降に支出できるもので、見合いの金融資産を保有しています。
資産見返負債：運営費交付金等を財源として、取得した固定資産の見合いの金額を減価償却費にあてるため計上するものです。
この2つは地方独立行政法人会計に特有の勘定科目です。

大学からのお知らせ

2019年度 学部・大学院学位授与式

2019年度公立鳥取環境大学 学部・大学院学位授与式を下記の通り執り行います。

※新型コロナウイルス感染症に関し、本学における対応については以下のとおりとします。

- 卒業生および教職員（式典運営関係者）以外の方については、式典会場および学部別学位授与会場への入場はご遠慮ください。
- 感染拡大防止のために、風邪の症状のある方は、式典への参加を自粛してください。

学位授与式の実施及び具体的内容については3月10日までに決定し、本学ホームページ上で発表します。

保護者の皆様におかれましては、参列いただくことがかなわず大変残念ではございますが、現在の状況を鑑みてやむを得ず決定しましたことを、何卒、ご理解いただきますようお願いいたします。

【日時】2020年3月20日（金）
● 受付開始／9:30　● 開　式／10:00
● 終了予定／12:30

【会場】公立鳥取環境大学
（鳥取市若葉台北一丁目1-1）

〈 お問い合わせ先 〉
公立鳥取環境大学総務課 TEL／(0857)38-6700

〈第34号〉2020年3月10日発行（年2回）発行
〈発　行〉公立大学法人 公立鳥取環境大学 事務局
〒689-1111 鳥取市若葉台北一丁目1-1 TEL.0857-38-6700 FAX.0857-38-6709
［公立鳥取環境大学ホームページ］http://www.kankyo-u.ac.jp/ ［E-mail］info@kankyo-u.ac.jp
再生紙を使用しています